

東西経済思想史

准教授 三 田 剛 史

1. 研究内容

経済思想とは、経済社会に対する見方、経済社会における人間の生き方などに関する思惟の蓄積であり、時代と地域の特性を反映している。本ゼミでは、今日の大学における経済学の主流的テキストには必ずしも含まれない日本や中国の経済思想を考究すると同時に、西洋の経済思想が歴史上東アジアにいかなる影響を与えたのかということも考えていく。

2. ゼミの進め方

《2年次》

春学期は、手始めに河上肇の『貧乏物語』の会読を行う。

秋学期は、日本、中国、ヨーロッパの経済思想の古典を選び、会読を行う。

《3年次》

春学期は、会読も行うが各自のテーマを発表し、報告と討論を行う。

秋学期は、各自のテーマの研究と報告を続け、3年時終了までに10000字の中間報告を書き上げる。

《4年次》

春学期は、各自の卒業論文の完成を視野に入れ、報告と討論を深化させる。

秋学期は、卒業論文の完成に向け各自の最終報告を行う。

3. 教 材

2年次春学期には河上肇著『貧乏物語』（岩波文庫）をテキストとする。

以後は、ゼミ生の関心に応じて担当教員が文献を選んで会読を続ける。3年次以降は、ゼミとしての課題文献以外に、各自がテーマとなる文献を自力で探索し報告を行う。

4. 成績評価の方法

2年次においては、研究に取り組む姿勢、報告内容、討論での発言や司会など、ゼミに対する努力、成果、貢献を総合的に評価する。これに加えて3, 4年次では、各自のテーマの研究成果に評価の重点をおく。

5. ゼミ入室試験（選抜方法）

選考方法は、各 Oh-o!Meiji グループの概要欄を確認すること。

6. 志願者へのメッセージ

会読の課題文献は、自分の報告分担のところ以外も必ず通読してからゼミに出席すること。各自の研究テーマは、ゼミ生一人一人が自分自身で模索し決定します。文献は基本的に日本語ないし和訳を使用しますが、必要に応じて外国語文献を扱います。本学学生も交換留学生も、報告と討論は日本語で行い、成果物（レポート、中間報告、卒業論文など）は日本語で執筆することとします。新年度から始まるゼミですので、3, 4年次の予定は変更することもあります。